市民主役のまちづくりの実現に向けた検討会提言書
提出セレモニーの議事概要

日　時：平成２８年８月２５日（木）１０時００分～１０時３０分
場　所：中央コミュニティーセンター８階　若潮
参加者：検討会メンバー４名
　　市民局長、市民自治推進部長、市民自治推進課長

１　提言書提出

・　検討会メンバーから市民局長に提言書を提出した。

２　市民局長挨拶

・　地域課題が多様化、複雑化する中で行政だけで課題を解決することは困難になりつつある。市民には、地域に興味や関心を持ち、地域課題に気づくことが求められている。
・　このような背景の中で、まずは市民あるいは地域コミュニティが地域課題の解決に向けて取り組む、そして解決できない場合に行政が取り組む、ということがまちづくりの基本的な考え方であると考えている。既に地域運営委員会や市民シンクタンク等でこのような動きは始まっている。
・　検討会メンバーには、地域において今回の経験を活かしていただくとともに市民主役のまちづくりの重要性を広めていただきたい。市は提言書を重く受け止め、今後の検討に活用させていただく。

３　懇談

（１）提言書をまとめる上で苦労した、あるいは留意した点は？（市）

・　ワークショップの意見をまとめることに苦労した反面、様々な意見に触れることで多くの市民の意見を提言書に反映できたと感じている。（参）
・　若年層にもわかりやすい内容になるよう、言い回し等は工夫した。（参）

（２）ワークショップの意見とはどのようなものであったか？（市）

・　地域課題に関する様々な意見があった。これらを行政で対応することは限界があり、行政に任せるだけでは立ち行かなくなることがわかった。（参）

（３）若年層の参加をどのように考えているか？（市）

・　若年層は、自分に身近なことであれば参加すると思われる。時間が掛かるかもしれないが、小さい頃から仲間と共に地域課題を考え、解決に向けて取り組む環境を整えることが必要である。学校単位で取り組めると良いと感じる。（参）

・　親世代が行動することで子どもたちも参加するようになる。高校生や大学生の頃から参加できるような環境があれば親になっても参加する。（参）

・　自治会活動は、一定の世代が中心となって活動することが多く、子育て世代等の多様な主体は参加しにくい。ちばレポのように一人でも参加できるような手段や土壌が整うと良い。（参）

・　提言書にある（仮称）私のまちづくり条例の概要（案）の内容が小中学校で読み上げられるものになると良い。小さい頃から社会と繋がっているという感覚が自然に身につくと良い。（参）

・　例えば、青少年相談員について、より子どもたちに近い世代（高校生、大学生等）もなれると良い。若年層が市の取組に参加できる体制を整える等、現行の制度を見直すことを視野に入れつつ市民から意見を聴けば良いと感じる。（参）

（４）今後の方針は？（参）

・　市議会（議員）と意見交換をしながら条例の検討を続けていく。新たな条例の必要性に関する議論として「市民からの意見」「現行条例とのバランス」が焦点となるが、その際に本提言書を有効に活用させていただく。（市）

（５）市（長）の意向は？（参）

・　地方分権の進展により各自治体において市民協働が推進されてきた。市では、この市民協働が真に市民主体で推進されることが重要であると考えている。（市）

（６）その他

・　「市に信託する内容が問われている」という話には、目から鱗が落ちる思いであった。何でも市にやってもらって当たり前という感覚では今後うまくいかなくなるということを広く知ってもらうために、発信の方法を工夫すると良い。（参）

以上